

アカデミックコーチング

～教えるから、気づきの教育へ～

2014年6月



松島桂樹

WAC: Workshop for Academic Coaching アカデミック・コーチング研究会 ～会員募集～

From "How to Teach" to "How to Coach"

【目的】

大学教育にコーチングを導入することで
従来のティーチングでは成し得なかった
大学教育の質的転換を図り、
グローバル時代に求められる資質を備えた
学生を育成する。

The mediocre teacher tells.
The good teacher explains.
The superior teacher demonstrates.
The great teacher inspires.

- William Arthur Ward -

inspire
motivate
move
teambuild



Faculty Development



Plan Do Check Action

【活動】

大学教員がコーチングを身につけ実践するために
理論的研究と実践に役立つプログラムを開発し、
広く日本の教育機関に展開し、有効性を検証する。

【会員募集】

Free membership

- ・当会の活動に共鳴していただける会員を広く募集します。
(推薦者不要・会費不要・会員要件なし)
- ・会員には研究会の動向と研究成果を提供します。
- ・研究会・ワーキンググループを開設し、賛同いただける方
と一緒に活動していきたいと思っています。
- *特に、教育実践の場でコーチングを活用されている、あるいは
活用したいとお考えの先生の御参加をお待ちしています。



International
Baccalaureate

Inquirers
Knowledgeable
Thinkers Caring
Communicators Risk-takers
Principled Balanced
Open-minded Reflective

【発起人】



facebook.com/academicalcoaching



共同代表 菅原秀幸
(北海学園大学 経営学部教授)
『「創造性」を育てる教育とマネジメント
—大学教育を革新するアカデミック・
コーチングへ—』(同文館出版)



共同代表 原口佳典
(一般社団法人日本支援対話学会代表)
『人の力を引き出すコーチング術』(平凡社)
『100のキーワードで学ぶコーチング講座』
(創元社)



事務局長 松島桂樹
(元武蔵大学教授)
『学生主体のコーチング型教育:
ゼミ授業で学生は成長する』
(白桃書房)

入会は、info@academicalcoaching.org または <http://academicalcoaching.org>

または まで

新しい時代における教育のありかた

ドラッカーの知識社会論

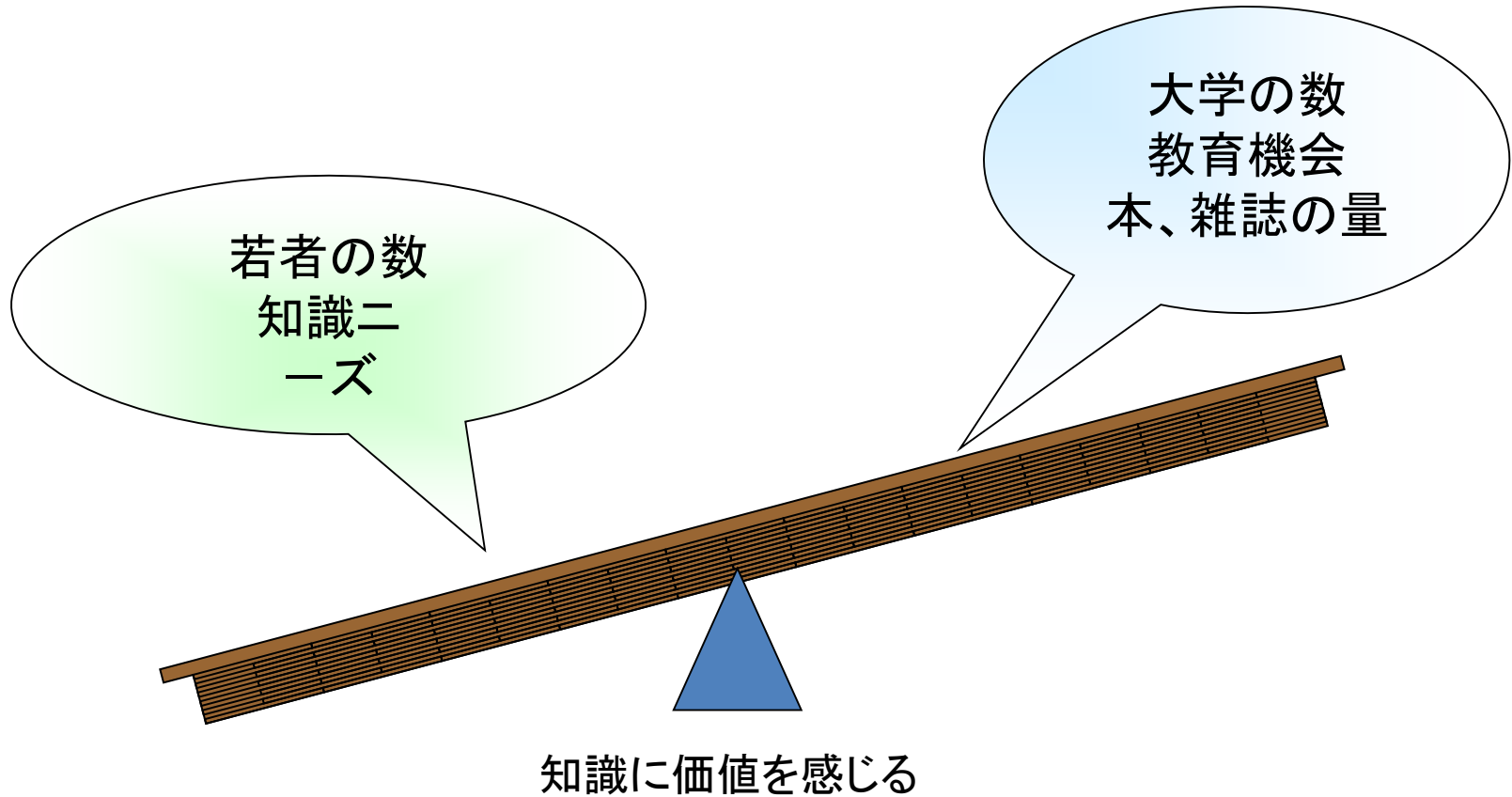
- 知識は知識自体でなく、仕事に組み込まれた時に価値をもつ
- 技術はゆっくり変わるが、**知識は、いつも変わり続ける**
- **今、正しい知識を持っていたとしても、新しい知識を習得しなければ、時代遅れになる**
- 変化は、その知識体系の外からやってくる。鉄道の大きな変化は、自動車、トラック、飛行機からやってきた
- **組織学習**こそ、ナレッジワーカーの生涯学習のためのプロセスであり、どのように学ぶか、に関する新しい理論だ

The New Society of Organizations, *Harvard Business Review*, Sep/Oct92.



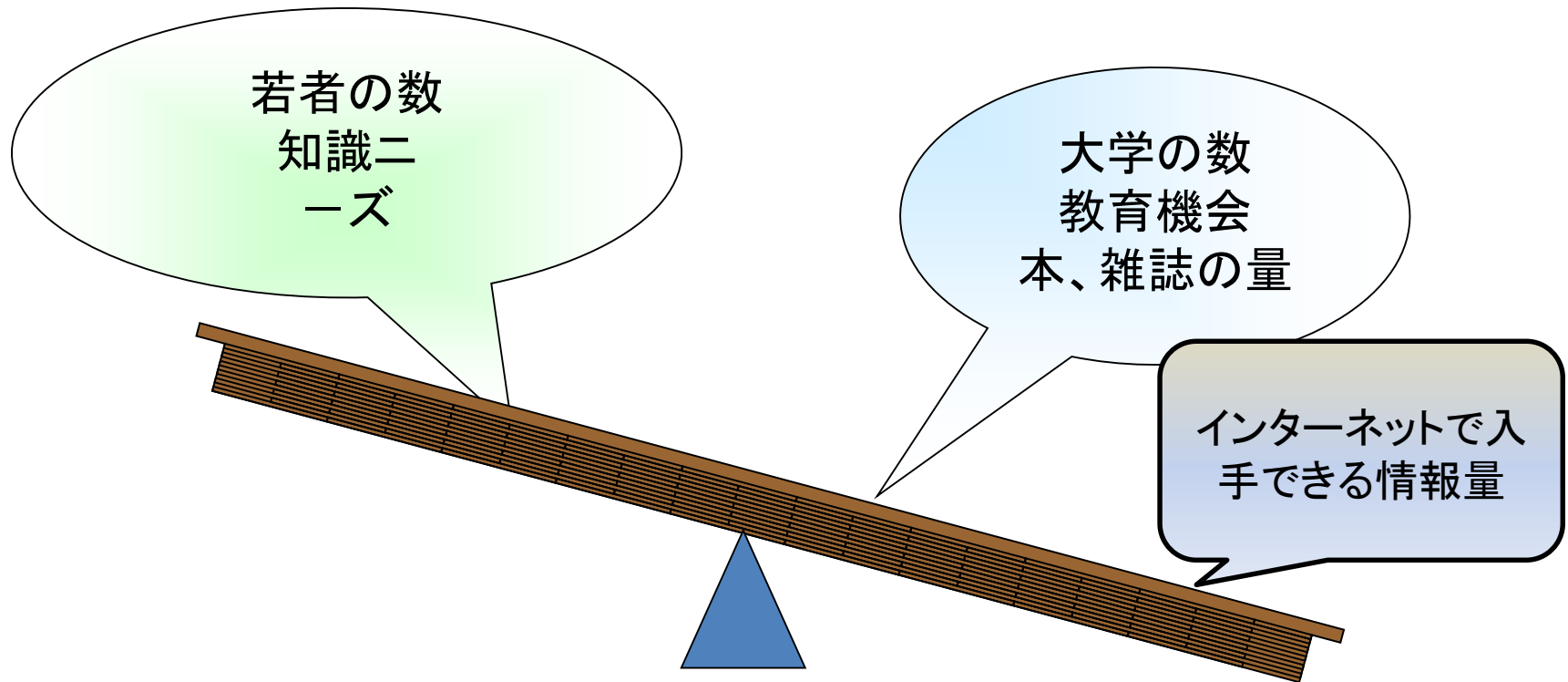
知識の変容の時代

- 従来



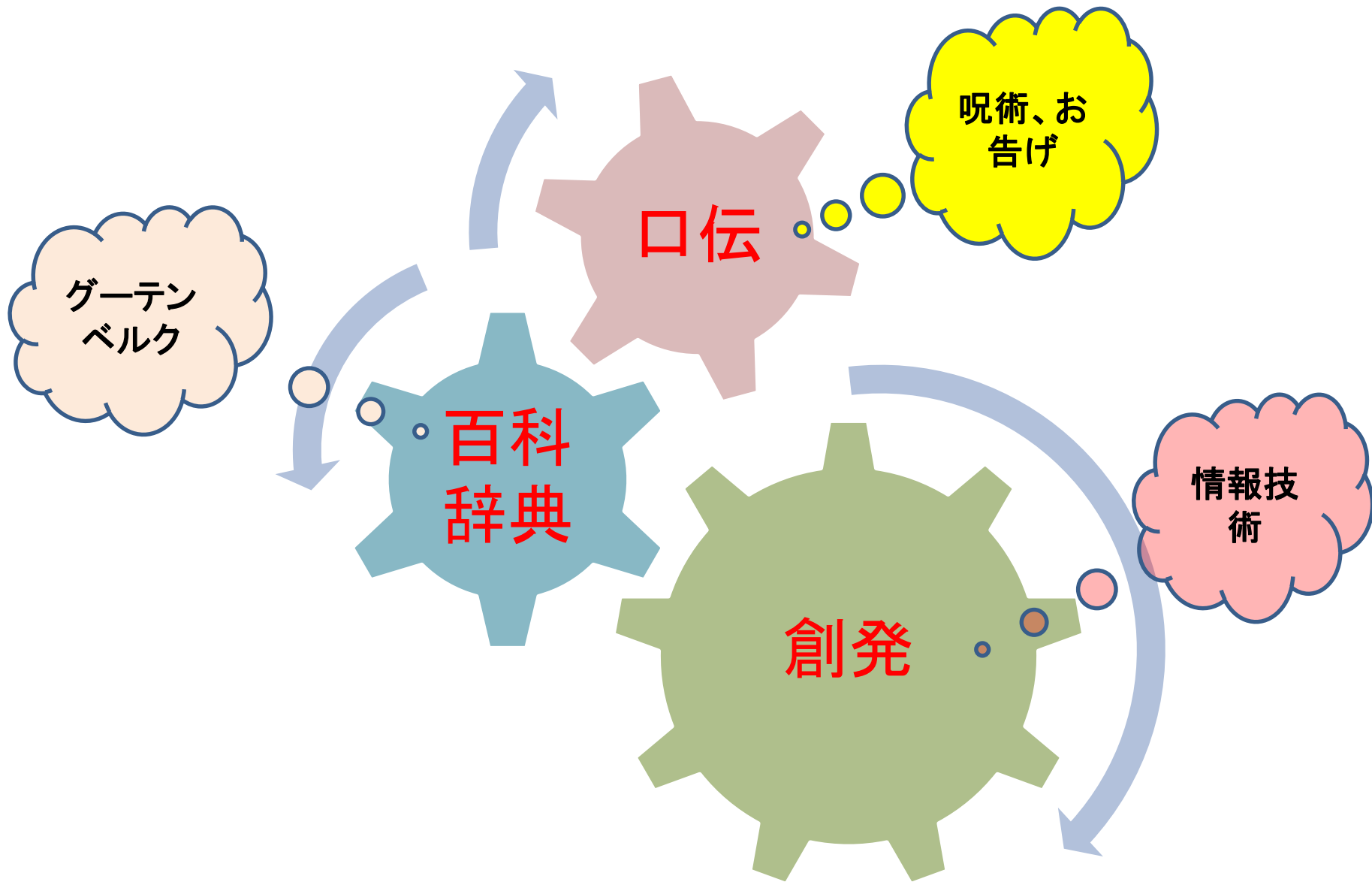
知識の変容の時代

- 知識供給過剰の時代



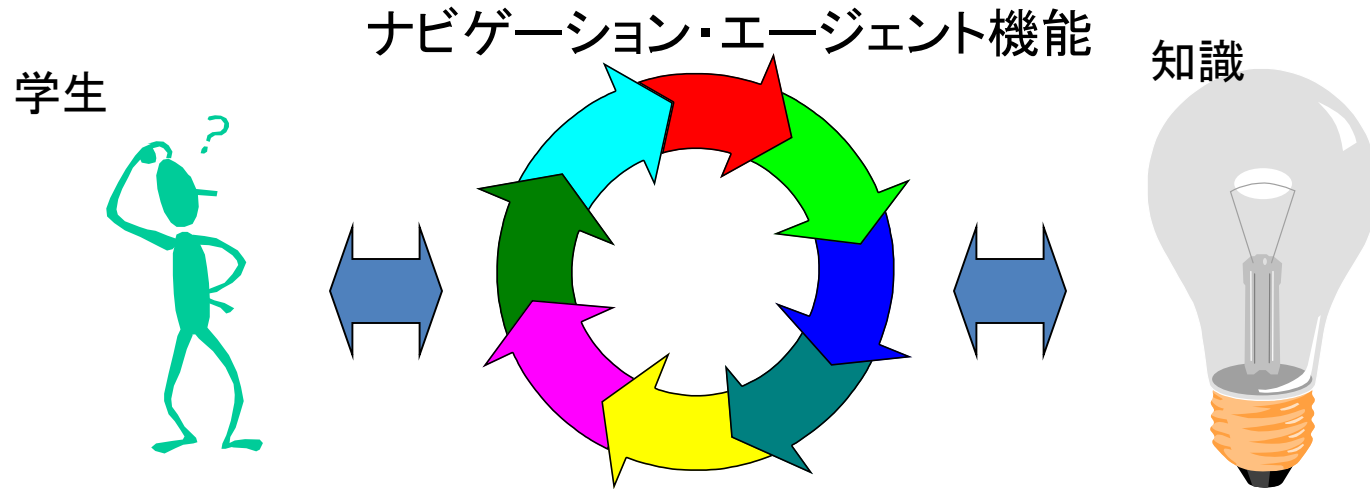
知識に価値を感じない、動機づけ、目的意識の低下、

知識獲得方法の変遷



これからの大学の役割

知識の提供から知識へのナビゲーション



魅力ある大学への改革
— 学生志向と差別化

- 授業の改革
- 学生の満足度とニーズの把握
- 学生との双方向コミュニケーション向上
- ワンツーワン教育

“最弱”チームは変われるか

～桑田と東大野球部～

クローズアップ現代 2013年6月3日(月)放送

- 負け続ける野球部の改革
- 伝統的超管理野球
 - 指導者の言うことだけを聞く
 - 言われたことしかなくなる
 - 指示待ちが常態化
- **常識を疑え、自分で考えて行動できるのがいい選手**
- マウンドで力を発揮するためには自分で考えなければいけない
 - 「結果を変えるには、誰が変わらなければいけないのか」
- 練習方法の改革
 - 練習のし過ぎ、練習は量ではなく質、何球集中して投げれるか
 - 変化球からストレート主体へ、練習方法の改革
- 小さな成功体験の積み重ねが、自信を持たせる
 - 「できるじゃないか」、「変わったね、変わったね」



コーチング

アカデミックコーチングとは

アカデミックコーチングの源流

- コーチング理論の発展
 - 国際コーチング連盟(The International Coach Federation)の動向
 - 関連研究の出現
 - 『コーチング心理学ハンドブック』パーマー、ワイブラウ、堀正(訳), 金子書房, 2011年
 - 『コーチング・バイブル』キムジーハウス夫妻、サンダール、CTIジャパン(訳), 2011年.
- 授業/教授法の発展
 - MOCC
 - 反転授業
 - ティップス先生(名古屋大学高等教育センタ)
- 米国では、包括的な教員支援機能
 - 教授法、LMS使用法、学位論文指導

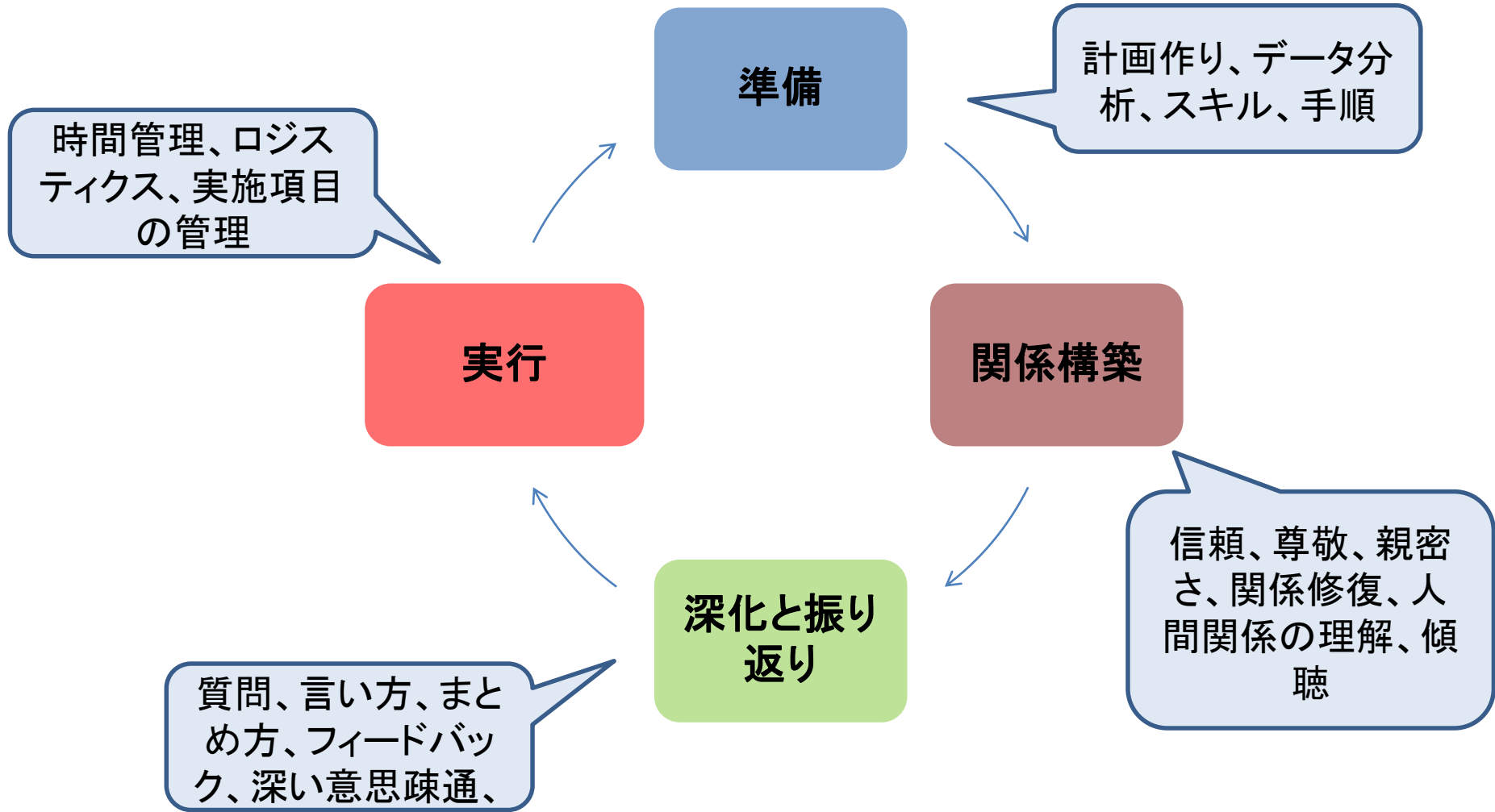
コーチングとは (ICF規定)

- 定義:
 - コーチングとは、試行を刺激し続ける創造的なプロセスを通して、クライアントが自身の可能性を公私において最大化させるように、コーチとクライアントのパートナーを築くことである
- 基本能力(core competence)
 1. 基盤の整備
 1. 倫理指針と専門家基準の合致
 2. 契約の成立
 2. 関係の共創
 1. クライアントの信頼と安心感
 2. コーチングの存在感
 3. 効果的コミュニケーション
 1. アクティブリスニング
 2. 強力な問いかけ
 3. 直接的なコミュニケーション
 4. 学習と成果の支援 (facilitating)
 1. 気づき
 2. アクションの設計
 3. 計画策定と目標設定

教育におけるコーチング能力とは

- 2007年、幼児に対するコーチング活動がコロラド州で毎月会合を実施
- ルール、方法、体系的な専門家育成などの共通的な支援を行うために、コロラドコーチングコンソーシアムを設立
- 調査によれば、数多くの事例が実施されている。コーチング能力を決めることが効果的であるとした。
- この会合の成果を文書化し、以下の活用を進める
 - 専門家育成ツール
 - 自己評価ツール
 - コーチ志望者の選定ガイド
 - コーチ能力の向上ツール
- ICFの能力にひとつ追加
 - 5.成功したコーチングパートナーシップの評価
 1. コーチによる実施方法の評価、チェックリスト、実証体験や満足度をフィードバックさせる方法
 2. コーチ業績の評価、振り返り、自己分析、自己改善、信念、姿勢、思考、スキルと知識、活動の改善

リーダーのコーチング能力とその育成



ティップス先生からの7つの提案

- 「優れた授業実践のための7つの原則」(米国高等教育学会: AAHE)
 1. 学生と教員のコンタクトを促す
 2. 学生間で協力する機会を増やす
 3. 能動的に学習させる手法を使う
 4. 素早いフィードバックを支える
 5. 学習に要する時間の大切さを教える
 6. 学生に高い期待を伝える
 7. 多様な才能と学習方法を尊重する



教員版

学生版

大学版

- 大学の組織的取組なしで教員の個人的努力に授業改善のすべての責任を求めることの危険性
- アクターは、教員+学生+大学

コーチング型教育の実践

体育会型人材育成とコーチング型人材育成

- 組織に歯向かわないイエスマン人材の育成

- 命令的
- 上位下達型
- 教師のいうことをよく聞く
- 理由を問わない
- 授業中はノートを取る
- 静かに聞く

一方向型、講義型

- イノベーションを生み出す人材の育成

- 自主的
- 学習重視
- 気づき
- 考える
- 議論する
- なぜ、と言える


協調型、演習型

日本社会と相似(松永真理,
日経ビジネス2013.5.27)

学生主体のコーチング教育

- 教えるから気づき
- 知識の伝達から、知識の獲得



- 
- 学生より先に教室へ、学生の表情を観察
 - 授業は「あいさつ」から
 - チームワーク、リーダーが決める
 - きみならできる、ちょっと努力すればできる
 - 「はい」ではなく、「どうして」といわせる
 - 教員よりリーダーを大事に、リーダー会議で育てる
 - 体系だったグループディスカッション
 - 外部と接触する
 - 目標設定、ゼミ大会
 - 振り返りシートによる目標管理、できるようになったことを発表
 - 評価によって学びにつなげる
 - ワンツーン
 - 月次評価

コーチング型教育における教員の役割



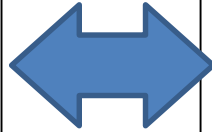
- 観察する
- 横から目線(上から目線ではなく)
- 聞かれるまで教えない、忍耐
- コーチに徹する
- 学生主体を強力に支援する
 - 学生が決め、実行し、成果の責任をとる
 - チームワークとリーダー重視



いい授業とは

- ・ 学生とのコミュニケーションが豊富に行われ、
 - 勉強しろ、勉強しろ、と何回も注意喚起
- ・ 学生の勉強の機会を増やし
 - いつでも、どこでも、勉強
- ・ 結果として学生が成長する
 - 大学のおかげで成長できた、と理解(誤解?)する
- ・ 効果的な授業の実施
 - 費用対効果
 - 高い満足度
 - 授業料、“元”がとれたと感じる

- ・ 教員への評価
 - 熱心さ、一生懸命
 - 学生をケアする
 - 学生ときちんと話ができる
 - 尊敬と畏敬



クラスは勉強のためのコミュニティ
• クラスマネジメント
• 雰囲気作り



まとめ

- 学ぶのは学生、教員はコーチ
 - 学生の主体性を重視
 - つかず離れず、余計なお世話と役立つお世話
 - 学生が決め、責任をもって完遂させる
- 教員の役割
 - 観察する
 - 教えるから気づかせる
 - クラスマネジメント
- 環境整備
 - 雰囲気づくり
 - 準備

